

認定調査票の記入のポイント【第2回】

第2回は「第1群 身体機能・起居動作」についてご案内いたします。問題から正しい選択肢を選んでみましょう。

問題 【1-1 麻痺等の有無】【1-2 拘縮の有無】

両上肢は確認動作を行えた。両膝の痛みがあり自力で1/3程度は拳上可能。両膝は他動で60度程度しか屈曲ができない。

- 1-1 麻痺等の有無 ない 左上肢 右上肢 左下肢 右下肢 その他
1-2 拘縮の有無 ない 肩 股 膝 その他

問題 【1-3 寝返り】

自分で肘について寝返りを行う。左側に寝返りすることは可能だが、右側に寝返りすることはできない。

- できる つかまれば可 できない

問題 【1-5 座位保持】

背もたれがない状態で自力で10分程座位できる能力はあるが、日頃は背もたれやクッションに寄りかかっている。

- できる 自分で支えれば可 支えが必要 できない

問題 【1-13 聴力】

ほとんど聞き取れず筆談での対応が必要だが、補聴器を使用すれば普通より大きめの声で聞こえる。日常的に補聴器を使用している。

- 普通 やっと聞こえる 大声が聞こえる ほとんど聞こえず 判断不能

回答 【1-1 麻痺等の有無】左下肢、右下肢 【1-2 拘縮の有無】膝

「麻痺等の有無」…本人が体を動かし、確認動作が行えるかどうかで判断。

「拘縮の有無」…調査員が本人の体を動かし、確認動作が行えるかどうかで判断。

★【1-1 麻痺等の有無】

痛みや痺れがあるだけでは評価できないため、確認動作ができたか必ず記載する。

★【1-2 拘縮の有無】

膝 90 度以上の屈曲は項目の評価に含まないため、正座の可否は関係ない。

回答 【1-3 寝返り】できる

「寝返り」…横たわったまま左右のどちらかに身体の向きを変えることができるか、あるいは何かにつかまっていなければできるかどうかの能力。

★間違いややすい選択肢

【1-3 寝返り】「肘について寝返りをする」 →○できる ×つかまれば可

【1-4 起き上がり】「肘で加重して起き上がる」 →○つかまれば可 ×できる

回答 【1-5 座位保持】できる

「座位保持」…背もたれのない状態で座位を 10 分程度保持できるかどうかの能力。

★わかりにくい特記例

× 「腰痛があり、背もたれとひじ掛けのある椅子を使用している。」

→ひじ掛けだけで座位保持可能か、背もたれも必要なかわかりにくい。

○ 「腰痛があり、背もたれのある椅子であれば 10 分程度座位保持可能。」

回答 【1-13 聴力】やっと聞こえる

「聴力」…日常的に補聴器を使用している場合、使用している状況で判断。

★わかりにくい特記例

× 「難聴があり、大きな声で話すと聞こえる。」

→普通より大きな声で聞こえる場合 ⇒ やっと聞こえる

→耳元まで近づいて大きな声で話す必要がある場合 ⇒ 大声が聞こえる

○ 「難聴があり、耳元まで近づいて大きな声で話さないと聞こえにくい。」